

報 告

第二十三回經濟研究会

四月六日(火)午後二時五十分 於經濟学部研究室

発表者 入江節次郎専任講師

テーマ 「第一次英國労働党内閣成立の政策的帰結」

【出席者】

中西、住谷、宗藤、松山、小松、黒松、今西、岩根、相見、西川、小野、伊藤、逆井、山本、古米、渡辺

經濟研究会主任住谷教授の司会に続いて、入江専任講師の研究発表が前記テーマのもとに行われた。発表内容は本誌本号の同氏の論文に詳しく発表されているので、こゝでの報告は省略致します。尚、発表後活発な質疑応答があつたが、この点についても本号の氏の論文に考慮されているので、同様に省略致します。

第二十四回經濟研究会

五月八日(火)午後二時五十分 於經濟学部研究室

発表者 住谷悦治教授

テーマ 「明治文化と三瀬諸淵」

【出席者】

中西、宗藤、松山、小松、黒松、中島、今西、岩根、西

川、岡谷、伊藤、田口、逆井、入江、山本、古米、野間、渡辺

經濟研究会新任宗藤教授の司会のもとに、住谷教授の研究発表が前記テーマのもとに行われた。発表要旨は次の通りであつた。(本要旨は発表者によつて書かれたものである)

尊皇攘夷でなしに、尊皇開国が明治新政府の指導精神であつたことは周知のことであるが、この歴史的的政治的な立場に置かれた人々は、討幕に成功した維新の主流を形成した人々のほかに、幕末における蘭学者、賢良派、書齋派ともいべき人々があつた。三瀬諸淵はそうした立場にあつた。諸淵、名は周三、天保十年(一八三九)十月一日伊予国大洲中町に生れ、明治十年(年一八七七年)十月十九日、三十九才で大阪に逝去。シーボルトの愛弟子の一人としてシーボルトの日本研究に協力し世界的に貢献した蘭医二宮如山(敬作)の甥であり、如山の指導の下に、若くしてシーボルトの名通詞として文化的使命を果し、シーボルトの孫娘高子と結婚し、後年、日本歴史を蘭訳し、蘭、英、各種の文典を著訳し、和蘭外科書、眼科書を和訳し、大阪医学校(現阪大医学部前身)の創立に参加し、エルメレンス講述の「日講記聞藥物学」全二十巻、「日講記聞原病各論」全十三巻を蘭訳出版し、医学自然科学に貢献したのみでなく、幕末から明治初期にかけて、宇和島藩主伊達宗城(最初の外務卿、外交の中枢)にブレインとして種々の重要な助言を与え、(宗城の日記)政府より法律制度の取調べを依頼され、専売特許法の起草、陸海軍々制改革、監獄制度改革等の立法に関係し

た。イギリス軍と姫路鎮台兵の衝突につき神戸三宮がイギリス軍に占領されたとき、自ら神戸港内イギリス公使館(旋船軍艦)に到つて交渉和解に成功し、英軍を撤退せしめた。(公使パークの秘書官アレキサンダーはシーボルトの子息で、「シーボルト日本最絡紀行」の著者。周三とは兄弟関係である)周三がシーボルトの婿としてシーボルトの影嚮裡にあつたことが彼をして世界的視野に立たしめ、幕末、明治の変動期によく文化的貢献を為さしめたわけであり、とく大阪医学校の創立とともに、教授ボードウィンやエルメレンスの講義を助け、自らは文部助教として甘んじ名刺に恬淡として、学究に終始した明治文化への隠れたる貢献者であり、記録さるべき人物である。(詳細は住谷著「蘭学者三瀬諸淵伝」「三瀬諸淵の研究」を参照されたし)

第二十五回経済研究会

六月十九日(火)午後二時五十分 於経済学部研究室

発表者 辻博専任講師

テーマ 「標本抽出設計の具体的問題」

——ラヂオ聴取率調査について——

【出席者】

松井、宗廣、松山、小松、黒松、中島、今西、岩根、伊藤、田口、逆井、山本、野間、渡辺

経済研究会主任宗廣教授の司会があつて、直ちに辻専任講師の研究発表が行われた。要旨次の通り。(本要旨は発表者によ

つて書かれたものである)

従来から行われていた放送聴取率調査、特に「電通」の指導の下に行われていた京都市に於ける、その調査の批判から出発し、昨年度末、実際に行つた調査の具体的問題を検討した。其の主なる点をあげれば

- a. 母集団設定の問題
1. 抽出単位として「個人」か「世帯」か。
2. 層化、集落化の具体的問題。
- b. 調査期間(一週間)中に於ける抽出単位の交替は妥当であるか。
- c. 実績精度計算の困難性。
- d. 集計技術上の問題点。

種々の調査に利用されている標本調査は、実際に設計に當つてみると我々が単に観念的に考へている以上に多くの問題点をもつている。それらのものは調査理論の進歩によつて改善される点もあるけれども、又、いわば「宿命的」な限界点のあることも感じられないではない。然し、そのことは標本調査の実際の価値を少しも損うものではない。我々は理論、技術の両面に於ける現在のその限界点を正しく認めて、過大評価も過少評価もすることなく、少しでもその限界点をせめてゆくように努力せねばならぬ。

発表後、次の諸点について質疑応答があつた。母集団設定の問題、抽出単位としての世帯の問題、聴取したか否かの基準の問題、正規分布並びに精度計算の問題、その他専門用語等。

一、昭和二十七年秋以来病氣のため休職しておられた経済原論担当の中島哲人教授は本年四月復職されました。

二、経済学史担当の相見志郎教授は本年四月大学院経済学研究科教授に任命され、経済学史特講を担当されることになりました。

三、逆井孝仁専任講師は本年四月より助教授に任命された。

四、辻博助手は本年一月専任講師に任命されました。

五、経済学部専任講師山本彰氏は八月三日午前零時三十分心臓麻痺のため永眠された。